

2024年度 第4次豊田市教育行政計画 点検・評価報告書【概要版】



1 点検・評価の概要及び実施方法

豊田市教育委員会では、豊田市教育大綱に掲げためざすべき教育の姿の実現にむけて、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、豊田市教育委員会が所掌する事務を適切に執行しているかについて、教育委員会自らが事業の点検・評価を行います。また、特に重点的な事業については、外部の有識者や教育委員の意見・助言を参考にしながら、担当課へのヒアリングや現地視察を通して、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を公表しています*。

*「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に規定

<第4次豊田市教育行政計画の進捗状況>

	自己評価区分				進捗状況				
	A	B	C	D	順調	概ね予定通り	遅れ	完了	廃止
重点事業 全12事業	5	6	1	0	4	3	5	0	0
基本事業 全29事業	17	11	0	1	8	12	5	3	1
全体	22	17	1	1	12	15	10	3	1
	54%	42%	2%	2%	29%	37%	25%	7%	2%

【評価区分】

- A：今後も現状（計画・予定）通り事業を進めることが妥当。もしくは、予定通り完了
- B：事業内容や事業手法に改善を行う余地があり。より一層の効率化やコスト削減、成果向上に努める必要がある
- C：事業内容や事業手法の大幅な見直しが必要。取組内容の一部廃止や実施主体の変更など、事業内容の大幅な見直しに努める必要がある
- D：事業の廃止や休止、事業規模の大幅縮減など、事業のあり方について抜本的に検討する必要がある

<重点事業と評価の実施対象年度> 12事業を3か年に分けて実施

重点施策名	重点事業名	2022	2023	2024
自らの可能性を広げる力の育成	「主体的・対話的で深い学び」推進事業			○
	I C T活用・整備推進事業	○		
	子どもの読書活動推進事業			○
誰もが安心して自分らしく学べる場の確保	きめ細かな教育推進事業		○	
	いじめ・不登校対策事業			○
	特別支援教育推進事業		○	
	外国人児童生徒等教育事業	○		
	学校施設長寿命化改修事業			※
郷土を愛し、生涯学び、活躍できる機会の創出	WE LOVE とよた教育プログラム推進事業	○		
	ものづくり教育プログラム事業		○	
家庭・学校・地域の共働の推進	コミュニティ・スクール/地域学校共働本部推進事業		○	
	地域との連携等による教職員多忙化解消推進事業			○

※事業展開の見直しを行うため、総合評価の対象から除外する。

3 第5次教育行政計画に反映するポイント

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進んでいる。今後は、探究的な学びをより一層推進するとともに、日常的なI C T利用やデータの分析、利活用もさらに進めながら、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図る。
- ・生活や学習上の困難さを抱えた児童生徒が増加しており、一人ひとりの特性に対応した環境や教育的ニーズに応じた指導・支援、障がいの有無に関わらず学びやすい環境づくりが求められている。校内はあとラウンジとパルクはあとラウンジの支援体制の充実や関係機関との連携を進めることで、教室以外の居場所の選択肢の拡充を目指す。

2 点検・評価の結果

<点検・評価実施委員による評価及び主な意見>

重点施策名	重点事業名	評価
自らの可能性を広げる力の育成	「主体的・対話的で深い学び」推進事業	A
■有識者・教育委員の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上授業モデル」はきめ細かく、分かりやすく作られており、経験の少ない教員でも活用しやすくなっている。また、毎年テーマを替えて実施例を元に改訂され、大変充実した内容になっており、それを活用した研修の回数及び満足度も高くなっている。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・「学力向上授業モデル」が、さらに活用されるように、「見やすい・わかりやすい・すぐ使える」工夫を取り入れるとともに、好事例を紹介することについても検討していく。 		

重点施策名	重点事業名	評価
自らの可能性を広げる力の育成	子どもの読書活動推進事業	B
■有識者・教育委員の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に即して、子どもの読書活動を切れ目なく支援、推進するための取組が進められている。子どもが読書に親しむ習慣を形成するためには、中長期的な視点に立って望ましい環境を整えていくことが肝要である。その点からも、計画的かつ効果的な取組として評価できる。 ・学校図書館の蔵書管理の観点からも、中央図書館の電子図書館の運営について、図書電子化、子どものアクセスの容易さなど、活用の促進に向けて検討をしていただきたい。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書は読書バリアフリーの観点からも効果的であるため、学校での活用に向けて現在、図書館管理課、教育センター、学校づくり推進課の3課で検討中である。また、更なる学校図書館の環境整備に向けて、今後も3課協議で検討を進める。 		

重点施策名	重点事業名	評価
誰もが安心して自分らしく学べる場の確保	いじめ・不登校対策事業	B
■有識者・教育委員の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・「校内はあとラウンジ」の整備や「パルクはあとラウンジ」の充実、どちらも学校や教室に行けない・行かない児童生徒の「居場所」を確保する上で重要な取組といえる。これら二種類のラウンジを、効果的に活用する方策や体制づくりについても検討されたい。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・校内はあとラウンジとパルクはあとラウンジの効果的支援体制（スタッフの増員、環境整備、支援方法、オンラインの利活用）の充実拡大を図る。 		

重点施策名	重点事業名	評価
家庭・学校・地域の共働の推進	地域との連携等による教職員多忙化解消推進事業	B
■有識者・教育委員の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化解消を個人の多忙感という切り口で見ると、初任者・ミドル層・ベテラン等、経験の違いによって何が変わるのか、個人の働き方の質の部分に着目して、業務改善に関する研修を職階別に行うことや、校内での連携・分担など組織体制のあり方など、組織的な取り組みが必要と考える。 ・保護者や子どもたちにも多忙化解消の意義を理解してもらうために、何をどのように考えて削減し、子どもたちにはどのようなメリットがあるのかを見える化することに力を入れてほしい。 ■今回の点検・評価に関する意見への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・役職、経験、年齢により多忙感はどう違うのかアンケート等から分析し、経年研修や役職者研修に位置づけ、組織的な対応・取組を支えていく。また、地域連携をはじめとした業務改善の各学校における取組を市内全校に紹介し、見える化を図る。 		